

おいしい米を早く食べさせて

『米消費拡大推進連絡協議会』が発足

米どころの本市にも「帳作」の嵐が吹き荒れています。その原因に、「米消費の伸び悩み」があります。国は、あり余る米の保管にも多くの経費を要し、古米として販売すれば味が落ちるため、消費が伸びないという悪循環、農家は労働力が少なくてすむ米は一番つくりやすくより多くの買上げを望むと、いう「すれちがい」を生じています。

当面、米の消費の拡大をはかるうではないかとのもくろみで、本市に「米消費拡大推進連絡協議会」が十月二十日、結成されました。協議会は、消費者、販売業者、農協、食糧事務所など幅広く関係団体から二十名で構成、規約を定めた後、会長に田村英実農業委員会長を選びました。

本年度の事業は、消費拡大標語、作文、図画募集、横断幕作成、物産まつりでのすしコーナーやパネルの展示などです。各機関の報告や希望では……

○食糧事務所

国は、①米飯給食の推進②米の割引販売、新施設への助成③栄養士などを通じての米食の普及活動④米の新しい加工の研究⑤良質米

の安定供給—を重点施策としてい

○お米屋さん

その年にとれた米はその年に消費するよう国の努力を要望する。これは消費者の希望でもあると

思うし、消費拡大の近道だ。

○農協

消費者が何を求めているかを把握しなければ。消費者の求めにあった良質米の生産を心がける。

○普及所(生活改善)



米消費拡大事業による図画募集

金賞 井上富貴(国府小学校1年)

米の上手なたきかたの講習会をしています。農家がまずおいしく食べる工夫を。みそだけでなく、漬物への米こうじの使用なども考えられる。

○市役所

おいしい新米を流通させる方法をまず考えてもらいたい。おいしい米ならみんなが食べるのではないか。

○教育委員会

いま、市内小学校で週一回米飯給食をやっていますが、子どもに味をきくと、家のごはんの方がおいしいと言っている。給食にはできれば新米を使ってもらいたい。米が余るから消費しようというよりも、栄養面からPRする方が説得力があると思う。中学での米飯給食は検討中だがふとる恐れがあるなど反応はあまりよくない。

大きな課題として、米飯給食になると施設の改善が必要、調理師の労働過重が心配される。経費的には米が少し高つく。

米消費拡大標語入賞作品決まる

- ▼一席二点
 - 米の味 わかるあなたは 日本
 - 人 浜口美保(片山)
 - ▼二席(三三)
 - 愛用で よい米 よい国 よい郷土 隈田雄三(後免町)

栄養面からはカルシウム、脂肪が不足するので、副食で補給する必要がある。今年度は七十回の料理教室を実施する。

○消費者

おいしい米を安く売ってもらいたい。土曜日などでPRをしてみたらどうだろう。

○議会の産経常任委員会

消費拡大という運動はどこから起ってきたのか、その根は深いな。効果を上げなければ、なかなか効果は上らないだろう。議会も農業に関心のある議員が多いので、みなさんといっしょに運動を盛りあげていきたい。

■会の全体的なムードは、国から新しい米、うまい米を出しおもしろいようにとの希望が多く出され、食糧事務所は「被告」のようでした。食糧は、日本にとって完全な戦略物資となったという食糧事務所の方の言葉が、この問題のむつかしさを象徴していました。

- もう一杯 ごはん大好き 元気な子 森木義彦(大地)
- 食べてから 周りがきめる 米の価値 森田鶴子(後免町)